

輸血・細胞治療センター

1. 概要

2018年1月2日の電子カルテ導入にあわせて輸血部門システムも更新をした。新たに超緊急時の輸血体制を強化し、超緊急時でもオーダーリングから実施まで通常の運用と同様の流れで輸血療法を実施することが可能となった。また、業務の効率化を図るため輸血部門システム構築を行い、請求票へのバーコード表示や二次元バーコードリーダーの導入により、輸血関連検査及び製剤管理がスムーズに行われるようになった。

2018年は、造血幹細胞及び小児用の分割製剤が、日赤製剤と同様の管理・運用ができるようシステムの整備を行う。また、輸血療法、自己血、特定生物由来製品の同意書・説明書を見直し充実をはかる。今後も輸血療法委員会の開催や院内監査の実施を定期的に行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理する。

(センター長 杉浦 勇)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) * 6回実施

(2) センター業務実績

①輸血関連検査件数

平成 29 年度	件数(件)
血液型	17,884
不規則抗体スクリーニング	13,383
交差適合試験	5,617

②血液製剤使用状況

平成 29 年度	総単位数(単位)	前年比
赤血球液 (RBC)	11,779	1.06
新鮮凍結血漿 (FFP)	3,858	1.10
濃厚血小板 (PC)	21,650	1.02

③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

平成 29 年度	総本数(本数)	前年比
25% ALB	1,433	1.00
5% ALB	773	1.10

*ALB 使用単位数：9,192 単位

*ALB/RBC=0.82 管理料 I 算定基準：2 未満

*FFP/RBC=0.30 管理料 I 算定基準：0.54 未満

④製剤廃棄率

平成 29 年度	廃棄率 (%)	前年比
赤血球液 (RBC)	0.40	0.89
新鮮凍結血漿 (FFP)	1.35	1.07
濃厚血小板 (PC)	0.29	0.91

⑤副作用集計報告

平成 29 年度	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球 (RBC)	115	81
新鮮凍結血漿 (FFP)	34	15
濃厚血小板 (PC)	150	44